

第6回 甲信越ブロック 在宅医療推進フォーラム

H.30.9.30.

ホテルニューオータニ長岡・
NCホール

大会長 医療法人社団 揚石医院
揚石 義夫



長岡花火

第6回 甲信越在宅医療推進フォーラム

(第11回在宅ケアを考える集いin越後2018)

<地域共生社会～生き方・逝き方、そして地域づくり～>

参加費
無料

在宅医療に携わる方々、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。お気軽にご参加ください。

日時：平成30年9月30日（日） 9:30～16:10（受付9:00～）

会場：ホテルニューオータニ長岡・NCホール（定員400名）

新潟県長岡市台町2-8-35 ※長岡駅東口より徒歩1分

主催：新潟県在宅ケアを考える会

共催：一般社団法人全国在宅支援診療所連絡会・公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団

◇◇◇プログラム◇◇◇

① 9:30～ 9:45 開会

② 9:45～10:45 基調講演Ⅰ

「地域包括ケアの深化と我が事・丸ごと地域共生社会の実現」

講師 厚生労働省大臣官房総務課 広報室長 吉田 一生 氏

座長 新潟県在宅ケアを考える会会長・上村医院院長 上村伯人

③ 11:00～13:00 分科会（第1会場：3階NCホール 第2会場：2階白鳥（東））

第1会場

I：人生最終段階における意思決定支援を考える

～医療者、市民への意思決定についての普及・啓発と本人・家族への支援のあり方～

座長 新潟大学医学部保健学科 准教授 坂井さゆり

齋藤内科クリニック 院長 齋藤忠雄

第2会場

II：共生社会における地域づくりと、わがまちの在宅医療・介護連携

座長 ほんだファミリークリニック 院長 本田雅浩

長岡市福祉保健部長寿はつらつ課 課長 横山幸信

④ 13:00～14:00 昼休み

⑤ 14:00～14:30 分科会まとめ

⑥ 14:30～15:50 基調講演Ⅱ

「家もいい看取りの場だよ」

講師 野の花診療所（鳥取県） 院長 徳永 進 氏

座長 揚石医院内科小児科循環器科 院長 揚石義夫（大会長）



参加人数：370名



基調講演 I

前 厚生労働省大臣官房総務課 広報室長
吉田一生 氏

「地域包括ケアの深化と
我が事・丸ごと地域共生社会の実現」

1. 地域包括ケアの確立と深化：[横串]の視点

- 地域医療介護総合確保法 = 医療、介護、生活支援の**丸ごと**



- 地域包括ケア強化法 = 高齢者、障害者、こども等の**丸ごと**

2. 危機感の共有：

- 人口減少 ● 子ども無し高齢者の増加 ● 労働人口減少 など

3. 医療/介護サービスではカバーできない生活課題が山積。



地域の**困り事を解決する仕組みを地域で持つ**ことが必要。

4. 地域支援事業の見直し

5. 我が事・丸ごと地域共生社会

- 我が事 **↔** 他人事 ● 丸ごと **↔** 縦割り
- 支え手側と受け手側に分かれるのではなく、住民が役割を持ち、支え合いながら活躍できる地域コミュニティー
- 高齢者 **+** 現役世代も参画する**“我が事”の地域づくり**



分科会Ⅰ
人生最終段階における意思決定支援を考える

【論点（キーワード）】

1. なるべく医師は出しゃばらない方がいい？
2. 「もしものこと」を考えたくない権利の尊重。
3. 「地域で看取る」という言葉の普及
4. 家族：専門職自身の看取りに対する率直な考えを聞いたうえで相談していきたい。
5. 「もしものこと」を切り出すタイミング
*将来の事を話そうとしているサインを見逃さない。
*退院時、敬老の日など節目での話もいいのでは？



分科会Ⅱ
共生社会における地域づくりと、
わがまちの在宅医療・介護連携

【論点（キーワード）】

1. “ゆでガエル”ではいけない。危機感！
2. 地域づくりは、住民からの提案が理想。
現実には、行政/志のある医療者の先導型多いが、
地域への見える化・住民を巻き込む仕掛けが大切。
3. 成功例をそのまま自分の地域に導入するのは無理。
地域の課題を地域自らが解決する仕組みが大切。



* 徳永先生のスライドに沿って、...

1. 在宅看取りの良い点

- ・自由、気がねない、何でもアリ
- ・思い出、懐かしい、匂いも風も景色も
- ・その人の“物語り”をふり返ることが容易
- ・死を手放さず、自分たちの宝にできる

2. 在宅で困難な理由/うまくいかない時

- ・在宅への戸惑いをご本人/ご家族に残っている
- ・ご本人とご家族の意向が合致していない
- ・ご家族へのサポートが不十分

3. どうしたら在宅で看取りがうまくいくか？

- ・大切なことに向かう一艘の舟のクルーになる
- ・チームとして取り組む（家族、専門職）
- ・節目でのきちんとした話し合いと家族支援
- ・“看取りの文化”が大切

4. ACPについて

- ・死を生と連続した自然なものとして受け入れる風土が根付くような活動を地道にやっていく

まとめ（参加者で確認したこと）

- ▶ 在宅医療の推進には、“地域づくり” “逝き方”がキーワード
- ▶ 市町村の地域支援事業を見える化し、市民・専門職の共通認識（＝危機意識）にする
- ▶ 地域には、医療/介護サービスではカバーできない課題が山積
その課題を、その地域自体が解決する仕組みを作ることが重要
- ▶ 我が事・丸ごと地域共生社会は、お互いに支え合いながら、高齢者だけでなく現役世代も我が事として参画する【地域づくり】が理念
- ▶ 死を生きる事と連続した自然なものとしてとらえる風土づくり
- ▶ 在宅医療を当たり前とする文化を再興していきたい